

野外での安全管理② ～危険動物について～

平成28年7月16日（土）
H28 奈良県森林環境教育指導者養成研修

熊（クマ）

クマの分布域

日本にはヒグマとツキノワグマが生息しています。ヒグマは北海道に、ツキノワグマは本州と四国の山地を生息地としています。昔は九州にもツキノワグマが生息していましたが、50年ほど前から生息は確認されていません。

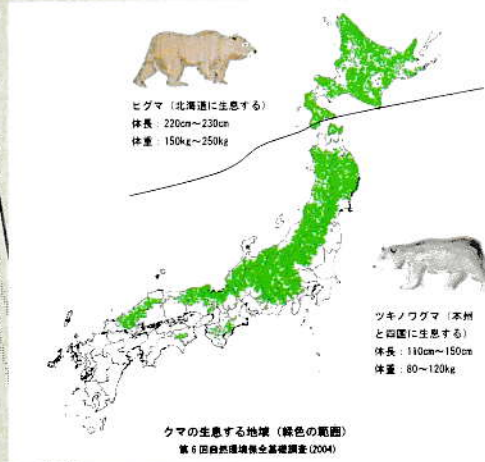
ヒグマ

北海道の約半分の地域に生息しています。森林を主な生息地としますが、木の少ない原野にも出てくる可能性があります。

ツキノワグマ

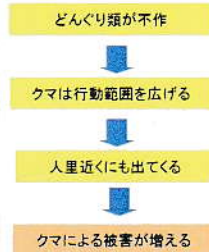
落葉広葉樹林のあるところを主な生息地としています。東北地方や中部地方では6割以上の地域に、関東・近畿・中国地方では3割程度の地域に、四国では限られた地域にだけ生息しています。

「クマに注意！」（環境省）より 抜粋



日本の森林とクマ

かつて里山などの山林は人手をかけて管理されてきました。このことがクマなどの野生動物が人里に近づきにくくしていたと考えられています。しかし、現在では山村地域の過疎化や高齢化など、社会環境の変化により、里山や山林を手入れする活動が減っています。



日本の国土のおよそ4割にクマ（ヒグマ・ツキノワグマ）が生息しています。生息地のほとんどが森林ですが、特にどんぐり類が不作の年は食物を求めてクマの行動範囲は広がり、本来の生息地を離れ、人里近くに近づくことがあります。このときに人との出会い、農作物被害や林業被害などの問題を引き起こすことがあります。

2004年、2006年、2010年に、全国的な大量出沒。

クマによる農業被害や人身被害が多発。被害防止のため多くのクマが捕獲。

原因は、クマの問題である**食糧不足のみ**??

人間の側の要因 : 過疎化が進む中山間地域の社会・経済問題
狩猟者の減少 e t c.

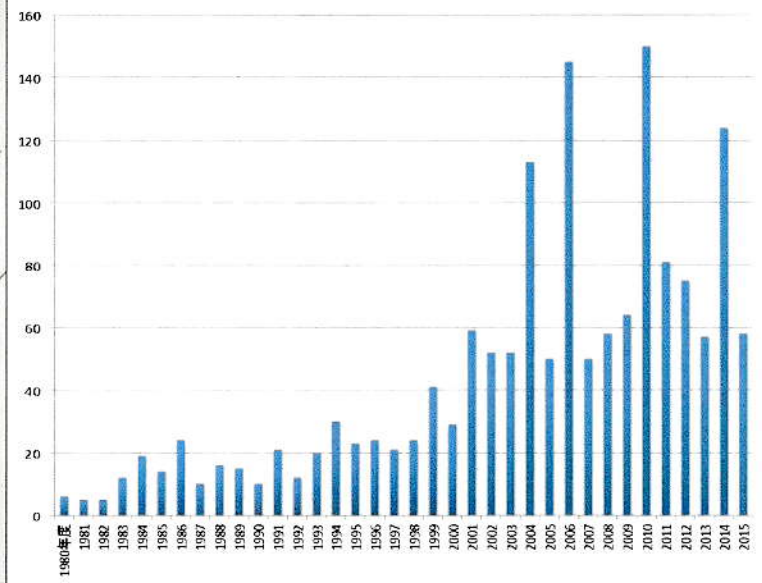
「木々の実り調査（堅果類豊凶調査）」一部の先進的な自治体のみ。奈良県では未実施。

木々の実りを調べることで、ある程度、その秋のクマの出沒傾向を予測する。出沒予測の指標となる樹種は、地域によって異なるが、主にブナ、ミズナラ、コナラなどの堅果類（かたい皮や殻に包まれた果実や種子）が挙げられる。

今年度、岩手県では、ツキノワグマの出沒に関する注意報が発令。（ブナの凶作又は皆無になることは確実と見込まれている。）

北陸・富山県では警報、石川・福井・長野・岐阜も注意報。

クマによる負傷者数推移



環境省の『クマ類による人身被害について』[速報値データ]参照。

※奈良県での熊目撃情報

・日時：2016年7月11日 17時30分ごろ

住所：十津川村桑畑

状況：子供とみられるクマ1頭徘徊。

現場：熊野参詣道古辺路の果無峠（標高1114m）の登山口付近。

※12日朝、村職員が捕獲用の檻と、注意を呼びかける看板を設置。

・日時：2015年8月14日 正午すぎ

住所：下北山村前鬼

状況：

「太古の辻」付近の登山道で、男性がクマに襲われ、顔や肩などに数か所のひっかき傷を負った。

男性を襲ったクマは体長約120センチで、男性を襲ったあと、再び森の中へ戻ったという。

男性は山の中腹のあたりでクマに襲われ、その後、自力で下山して大阪の自宅に戻り、警察に通報。

警察や下北山村では、山に入る登山者にクマに注意するよう呼びかけています。

・日時：2014年11月17日 14時30分ごろ

住所：五條市西吉野町茄子原

状況：柿畑でツキノワグマ1頭が目撃された

※市内の柿畑に出没したのは約2年ぶりという

※市は18日、捕獲用の檻を設置し、周辺住民に注意を呼び掛けています。

九州のツキノワグマは1941年にオスが捕獲され、
1957年に子グマの死骸が見つかり、
1987年11月のオスを最後に野生絶滅したとされてます
(2001年大分県版レッドデータブック)。

1987年11月のクマは、大分県の祖母傾山系で猟師が射殺したという。
但し、このクマは、もともと九州に生息していたクマの生き残りではなく、
本州から人が持ち込んだクマかその子孫だとするDNA解析
(福井県から岐阜県にかけて局所的に分布しているクマと同じタイプ)
の結果が報告されています。

2009年1月には、宮崎県高千穂町の山林でイノシシ捕獲用の罠にかかり、
猟師が現場を離れた間にいなくなってしまったとの情報が寄せられていました。

2011年10月以降、祖母傾山系で目撃情報が相次いだため、野生生物の専門家らで組織する
「日本クマネットワーク」が、痕跡調査を実施。
2013年まで。

危険

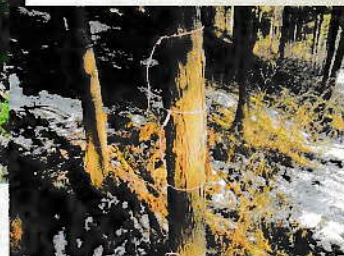
子連れのカマ、突然の出会い頭に驚いた
クマが人を襲う事例が多い。
※溪流釣りをする人は要注意。
川の流れて物音がかき消される上に、釣
りに集中していたため、クマが接近する
まで、互いに気がつかない事例がある。

予防

クマ鈴やラジオなど、音を出し
ながら人の存在をアピールしな
がら歩く。
単独行動は厳禁、複数人で行動
する。
活動地付近で糞や足跡などの
フィールドサインの調査を行い、
生息の有無を確認し、生息域に
近づかないようにする。

対策

目をそらさず、ゆっくり
と下がりながら、クマが
逃げる隙を与える。
「死んだふり」「木に登
る」は有効ではない。



もし、クマと出会ったら・・・

- ①目をそらさず、ゆっくりと下がりながら、クマが逃げるチャンスを与える。
- ②近づいてきたら、カバンなどをそっと置いて、様子を伺う。
- ③カバン等に興味を持ったら、少しずつ下がりながら離れる。



「死んだふり」とか効かないよ。
木登りも得意だから、木に登っても、逃げられないよ。



ツキノワグマのフィールドサイン①



ツキノワグマのフィールドサイン②

クマ剥ぎはツキノワグマの習性のひとつで、主に5～7月頃にかけて見られ、樹皮を失った樹木は商品価値が失われ、ひどい場合は枯死します。

樹皮を剥ぐ理由として有力なのは、採食行動の一つとして捉えられています。

蜂蜜を好むクマ類が甘党なのは皆さんご存知のとおりです。スギ被害木の樹皮下の形成層は甘いのです。その甘さにつられてクマ剥ぎが発生するようです。スギ形成層からは、果糖、ブドウ糖、ショ糖が検出されています。昔の山行きはスギの甘皮を口に含んでいました。

研究報告では、5月が一番糖濃度が高くなっています。その前後の月当たりがクマ剥ぎ被害が多いかもしれません。その他には、ツキノワグマの剥皮例として針葉樹では、ヒノキ、サワラ、モミ、シラビソ、アカマツ、カラマツ、トウヒ、コウヤマキなどが上げられています。荒皮を剥ぎ取られた跡に4本の歯形が残っておればクマ、2本の歯形であればシカだそうです。

他には、爪の伸びすぎによる歩行等への影響を抑える為の爪とぎとしても考えられています。

他には、交尾期のメスへのアピール説もあります。



猪 (イノシシ)



危険	予防	対策
子連れのイノシシ、突然の出会い頭に驚いたイノシシ 都市部では、人になれたイノシシが、餌欲しさに襲うこともある。	足跡、ヌタ場（ドロ遊び跡）などのフィールドサインを調査し、生息状況を把握する。 ラジオなどの音を鳴らし、人の存在をアピールする。	イノシシが上れない岩や木の上に避難する。



イノシシのフィールドサイン①



イノシシのフィールドサイン②



鹿 (シカ)

オス、メスともに3000g前後で生まれ、成獣になるとオスは60~100kg、雌鹿は40~60kgに成長する。オスだけに角があり、生後1年で1本角を1対、成獣になると3つに枝分かかれた立派な角を1対もつ。
 ニホンジカは一年を通じて二回換毛する。
 春頃に換毛する夏毛は茶褐色に白い斑点（鹿の子模様）、
 秋頃に換毛する冬毛はメスは灰褐色でオスは濃い茶色になる。
 斑点は雌雄とも消える。発情期のオスのみ首の周りにたてがみが生える。



※日本には、ニホンジカの亜種としてエゾシカ、ホンシュウジカ、キウシュウジカ、マゲシカ、ヤクシカ、ケラマシカ、ツシマジカが生息している。
 奈良のシカは、ホンシュウジカに属する。



平均寿命：オス 約15才、メス 約20才

<http://naradeer.com/aboutnaradeer/>より参照。

ニホンジカの角の1年



鹿 (シカ)

ディアライン (鹿摂食線)



ニホンジカは、1日1頭当たり3キロもの量を食べる大食漢（だいしょくかん）。あらゆる草木を食べ尽くすかのように思われるニホンジカですが、彼らが食べない木もあります。

たとえば、アセビ。
 アセビは漢字で「馬酔木」と書くのですが、葉を食べれば酒に酔ったような状態になることからあてられた字で、有害な植物のため食べません。

奈良公園では、シカは食べられる草木ばかりを選び、その結果アセビが残り群生が見られています。

シカが食べない木は、他にナンキンハゼ、イヌガシ、カゴノキ、ナギ、ヤブニツケイ、レンゲツツジなど。
 草ではワラジロ、イフヒメワラビ、イアザミ、イラクサなどで、これらは草木が有毒物質を持っていたり、
 また、動物が好まない忌避物質（きひぶっしつ）があるために、
 どんなに飢えていても食べることはありません。

奈良公園の樹林を観察してみると、約2メートルの高さまで下枝がなく見通しがよくなっている景観がある。
 これはディアライン（鹿摂食線）と呼ばれ、鹿が立ち上がり食べられる高さまでの草や木の葉を食べるためである。
 そのため、不嗜好植物の群生地ではディアラインは形成されない。

春は出産後のメスジカが我が子を守るため、秋はオスジカは発情期に入るため、気が荒くなっていて人に襲いかかることもあります。鹿に接する時は十分注意して下さい。

狩猟・有害鳥獣駆除について

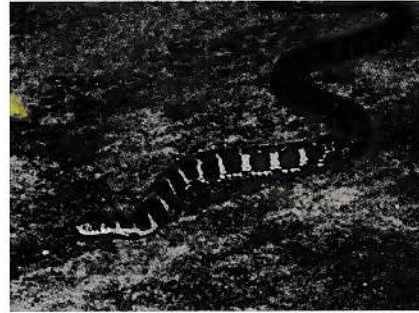
奈良県では農林業被害が深刻化しているニホンジカ、イノシシについて「特定鳥獣保護管理計画」を策定して、被害状況や生息状況を把握し、適正生息数へ誘導するための各種の規制緩和を実施しています。

狩猟における留意事項

1. 狩猟期間
11月15日から翌年2月15日まで（獣害駆除はこれに限らず。）
2. 狩猟が禁止されている区域
 - ①鳥獣保護区
 - ②休猟区（奈良県では現在指定地域がない。）
 - ③公道（農道や林道を含む。）
 - ④自然公園法第14条第1項の「特別保護地区」
 - ⑤都市計画法第4条第6項の都市計画施設である公共空地その他の公衆慰楽の目的で設けた園地であって、囲い又は標識によりその区域を明示したもの
 - ⑥自然環境保全法第14条第1項の原生自然環境保全地域
 - ⑦寺社境内、墓地



3. 禁止されている猟法及び特定猟具使用禁止区域【銃】
 - ①爆発物、劇薬、毒薬、据銃、落とし穴、シカ、イノシシ等の大型獣を吊り上げて捕獲する構造を有するくくりわな。
 - ②ユキウサギ及びノウサギ以外の対象鳥獣の捕獲等をするため、はり網を使用する方法。
 - ③口径の長さが10番の銃器又はこれより口径の長い銃器を使用する方法。
 - ④飛行中の飛行機もしくは運行中の自動車、5ノット以上の速力で航行中のモーターボートの上から銃器を使用する方法。
 - ⑤構造の一部として3発以上の実包を充填することができる弾倉のある散弾銃を使用する方法。
 - ⑥装薬銃であるライフル銃（ヒグマ、ツキノワグマ、イノシシ及びニホンジカにあっては、口径の長さが5.9mm以下のライフル銃に限る。）を使用する方法。
 - ⑦空気散弾銃を使用する方法。
 - ⑧同時に31以上のわなを使用する方法。
 - ⑨鳥類並びにヒグマ及びツキノワグマの捕獲等をする為、わなを使用する方法。
 - ⑩おし（箱落としの栈がついてないもの）又はトラバサミを使用する方法。
 - ⑪つりばり又はとりもちを使用する方法。
 - ⑫弓矢を使用する方法。
 - ⑬犬に噛み付かせることのみにより捕獲等をする方法又は犬に噛み付かせて狩猟鳥獣の動きを止めもしくは鈍らせ、法定猟法以外の方法により捕獲等をする方法。



ヤマカガシ

こちらも北海道以南に生息。

奥歯と首の根っこに毒を持つてる。

1970年までは毒はないと思われていたが、少年が死亡する事故があり毒が発見された。

奥歯にある牙は出血毒で毒性はマムシの3倍、日本一の毒性をもつ。

噛まれても初めは症状がないが、時間が立つにつれ内蔵や歯茎から出血し、血便やショック状態になり危険。

血清がある機関が少なく重篤になる場合があるため、近づかないように。

また、マムシと同様色が黒い個体あり

マダニ

「ダニ」と聞くと私たちは家の中の畳やカーペットに住む小さな生物を連想しますが、マダニはそれとはまったく別の種類の生き物です。

同じダニの仲間には違いありませんが、ダニとマダニは生息地もその生態も全く異なっています。

英語でもダニは「mite」、マダニは「tick」と呼び分けがされています。

マダニはクモに近い節足動物の仲間です。

体は顎体部と胴体部のふたつに分かれ、胴体部に4対、計8本の足がついています。

前足1対が比較的前方に突き出されているので触角のように見えがちですが、触覚はこれとはまた別に顎体部についています。

マダニはほかのダニに比べて非常に体が大きく、通常時でも2mm~3mm程度はあって肉眼でははっきりと見えます。これは小型のデントウムシやシバンムシぐらいの大きさです。



■ マダニとイエダニの違い

	マダニ	室内のイエダニ
大きさ	3~8mm	約0.5mm
生息場所	主に野山	家
吸血性	あり	なし
疾患	日本紅斑熱、SFTS、ライム病、ダニ媒介性脳症、つつがむし病	アレルギー性疾患



マダニの人間に対する危険性①

マダニは山の中に限らず、そのへんの公園や河川の草むらにも潜んでいます。ですので山登をしたり、公園で遊んだりしているうちに知らないうちに咬まれることがあります。最初は体が非常に小さいので、どこかで傷を受けたそのカサブタかなぐらいにしか思わないことが多いようです。しかし日にちが経つにつれてそれはどんどん大きくなっていき、そこで寄生に初めて気がつきます。

ここでやっかいなのが、彼らはセメントのような唾液で体を固定しているという点です。無理に引き抜こうとするとマダニの頭部や差し込まれている牙が体内に残ってしまうのです。マダニを強く掴むとマダニの体液の逆流を招くこともあり、感染症などのリスクが高まってしまいます。無理に引き抜くことは推奨できません。一番確実な取り方は病院に行くことです。

自力でなんとかする方法。

よくいわれるのは、**アルコールをかける、線香の火を近づける、氷で冷やす**などの手段です。

嫌がる刺激を与えてマダニが外れるのを期待するやり方。

特に線香の火で**マダニのお尻に刺激を与える方法は有効なときが多い**ようです。

ただしこれらをやり過ぎるとマダニが外れる前に死んでしまい、結局死骸が丸ごと残ったままになってしまいます。そうすると結局病院へ行くこととなりますのでご注意ください。

マダニの人間に対する危険性②

一番安全で確実性が高いのは**アルコール**でしょうか。

(ベンゼンやイソジン、もしくは虫除け(DEET成分を含むもの)でも構いません。)

脱脂綿などに染み込ませてそれをマダニに被せ、しばらく放置します。

その後、さらに綿棒などでやさしく突っついて刺激を与えます。

消毒用エタノール(第三類医薬品)がもっとも良い?

アルコール除菌スプレー エタノール含有率が低い

どうしても外れてくれない場合は、毛抜きピンセットで接合部を軽くつかんで丁寧に引き抜きます。

アルコール攻めをした後だと、普通の状態で引き抜くよりもかなり簡単に引き抜くことができるそうです。

専用のピンセットの発売されている。

アルコールで顎の力がなくなっているからでしょうか?

最後に、傷口に牙が残っていないか、また何かの感染症の症状が出ていないか確認はするべきです。



マダニの人間に対する危険性③



<http://www.otom.com/how-to-remove-a-tick>

マダニを媒介にした感染症

①重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) :

最近媒介が確認されて話題になったSFTSウイルスによるものです。野生下のマダニのウイルス保有率は5~15%程度とみられています(愛媛での調査では6~31%)。嘔吐、下痢、頭痛などの症状を引き起こし、最悪の場合死に至ることもあります。

日本でも死亡例の報道が数件相次ぎましたが、これは原因が最近解明されたためであり、重症熱性血小板減少症候群は昔から日本にあったとされる病気です。マダニに咬まれないための対策はもちろんしたほうがいいですが、これを過剰に恐れる必要はありません。正直言ってマスコミが煽りすぎています。マダニによるSFTS感染が原因とされる患者数は151人で、そのうち41人が亡くなっています(2015/8時点)。気をつけるに越したことはありませんが、気にし過ぎて自然に全く触れないようになるのも考えものです。

②ライム病

ネズミやシカなどが持っている病原体のボレリアが感染することによって起こる病気です。マダニが吸血を始めてから48時間以上が経つと感染リスクが高まるとされています。傷口近くから赤い斑点が現れ、全身の倦怠感、寒気、頭痛、嘔吐、発熱、関節痛などの症状が現れます。最近では歌手のアヴリル・ラヴィーンが、マダニに咬まれたことによりライム病にかかり病床に伏せました。半年近く寝たきりに近い状態になり、彼女はその症状の重さに一時は死も覚悟したそうです。

③日本紅斑熱

日本紅斑熱リケッチアという病原体の感染によって引き起こされます。症状は風疹に似ていて、発疹や発熱の症状が起こります。毎年50~100人程度の感染が確認されており、いままでに4件の死亡例があります。

マダニに咬まれないための対策

①肌の露出を防ぐ

長袖の上着や、丈の長いパンツを履きましょう。
これはダニ以外の虫に対しても効果的です。

②虫除けスプレーを使用する

主に蚊を寄せないために使用されることが多い虫除けスプレーですが、これに含まれるDEET（ディート）という成分はマダニの忌避剤になることがわかっています。虫除けスプレーの効果は大体2時間程度が限界と言われているので、定期的に全身に吹きかけてマダニを寄せ付けないようにしましょう。

③草木にむやみに接触しない

マダニの宿主への唯一の接触方法がこの草木を介するものです。20cm以上の草であればマダニがいる可能性は十分にあります。あと笹には特に注意。マダニは「笹ダニ」と呼ばれるぐらい笹で待ち構えるのが好きです。

④動物が通る道には特に注意する

マダニは宿主から吸血し終わって外れた後、ほとんど移動をしません。つまり日常的に動物が通る道は、マダニが再び待ち構えている可能性が高い場所だと言えます。

⑤帰宅後は全身をチェック

マダニに刺されても、その唾液に含まれる成分の麻酔効果により自覚がないことがほとんどです。マダニが息を止めていそうな場所から戻った後はいちおう全身を軽くチェックしておきましょう。発見が早ければ感染症によるリスクを減らすことにもつながります。

ツツガムシ

幼虫期、温血動物（特にネズミ）に寄生し、リンパ液を吸うダニの仲間。

局所の症状はほとんどない。

ツツガムシ病の病原体「リケッチア」をもつ幼虫に咬まれると、約2週間後、ツツガムシ病を発症し、患部の潰瘍、リンパ節の腫れ、高熱が出る。系統によるが、致死率は0～60%。

かつては山形県、秋田県、新潟県などで夏季に河川敷で感染する風土病であったが（古典型）、戦後新型ツツガ虫病の出現により北海道、沖縄など一部の地域を除いて全国で発生がみられるようになった。

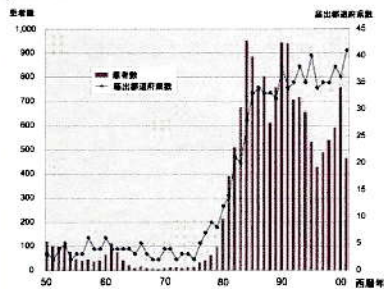


図3. ツツガムシ病の患者数および発出都道府県数の推移（1950～2001年）



■ツツガムシ
体長0.5～0.8mm



■マダニ(フタゲチマダニ)
体長1.8～3.0mm

スズメバチ①

年間に10~20人程度の方がこのスズメバチによって亡くなっており、国内ではクマ、ヘビ、なんかより遥かに多い数字です。
スズメバチは日本で最も人間にとって身近で危険な生き物と呼んでも過言はありません。



オオスズメバチ(右)と、キイロスズメバチ(左)

「スズメバチ」といっても様々で、日本だけでも16種類のスズメバチが生息しています。有名なのは世界でも最大種である**オオスズメバチ**、都会の生活にも適応している事故が多い**キイロスズメバチ**あたり。

スズメバチの営巣場所は種によって異なっています。コガタスズメバチのように開放空間に営巣する種や、ヒメスズメバチ、モンズズメバチ、オオスズメバチのように閉鎖空間に営巣する種、キイロスズメバチのように、開放空間、閉鎖空間のいずれにも営巣する種があります。

また建物、樹洞、地中など種によって営巣する場所も異なっています。

働きバチが羽化するとあちこちで巣材を集めてくるため、材料の違いから外皮の表面には特徴のある貝殻状の模様ができます。

巣の形や外皮の模様は種類によってそれぞれ特徴があり、ハチの種類を判別するのに役立ちます。

スズメバチの巣には何段にもなった巣盤とボール状の外皮があります。

外皮は朽ち木の木質部や生きた樹木の樹皮をかじり取ったものを、だ液と混ぜて団子状にして巣に持ち帰ります。細かく噛み砕いた後、大顎と前肢を使って薄く延ばしながら表面に貼っていきます。

スズメバチ②

スズメバチの繁殖サイクル

女王蜂は春になると冬眠から覚めて、自分のコロニーづくりのために活動を始めます。このとき自分1匹しかいない状態なので、巣作りも餌探しも幼虫の世話も当然全て自分だけでこなします。

育てていた幼虫が働き蜂として立派になるのは**初夏**。⇒**危険なシーズンの到来**。

それ以後は女王蜂は巣にこもって産卵のみに専念します。

ちなみにここで生まれる働き蜂は全てメスで、ここまでは完全に女社会です。

そしてどんどんその数を増やして行って、秋には数百匹の大所帯を形成するようになります。

その頃になって初めてオス蜂と次世代女王蜂が生まれてきます。

オス蜂も次世代女王蜂も多数いて、それぞれ巣を旅立って交尾を行い、無事に生き残った次世代女王が冬眠してまた次の年に活動していくことになるわけです。

このときオスは冬眠をすることができないので全て死に絶えます。

交尾するだけのために生まれてくるオス。

幸せなのか不幸せなのか・・・

元々の女王蜂、働き蜂も越冬せずに生涯を終えることになります。

つまり次世代をになう仲間が飛び立ったあとコロニーはそのまま滅びるわけです。

スズメバチ③

人間にとっての危険性①

①まず近づかないこと

これはどんな危険生物にもいえる当たり前のことです。

まずは蜂の巣がありそうなところに立ち入らないこと。
舗装された道路を歩けば絶対安全なんてことはいいませんが、
無駄に獣道や茂みに入れば知らず知らずのうちに彼らの巣の近くを歩いてしまうことも。
彼らは巣に近づくものに対する警戒心が非常に強いので、攻撃を受けてしまう可能性が高くなります。
特に夏の終わりから秋にかけてはコロニーが一番大規模になっているので
集団攻撃を受ける可能性もあって大変危険です。

こちらから接近しない心得も大事ですが、接近させない心得も大事です。
スズメバチは食べ物やジュースの甘い匂いに惹かれてやってきます。
飲みかけの缶ジュースの中に知らない間にスズメバチが入っていて、唇を刺されたなんて事故も過去に存在します。
バーベキューやピクニックなどでは、長い時間食べ物を放置しない、ジュースなどは蓋の出来る入れ物を選ぶ、など
ちょっとした心がけでリスクを減らすことができます。

香水なんかもNGです。
スズメバチの好む匂いは人間が好む匂いと非常に近いらしいです。
良い匂いで異性を呼び込むのもいいですが、なにも蜂まで呼び込まなくてもいいと思います。
アウトドアのときぐらいは香水は控えましょう。

スズメバチ③

人間にとっての危険性②

②スズメバチを発見したら

まず遠距離で発見してスズメバチがこちらを意識していない場合。
距離を保ちつつゆっくりとその場を立ち去りましょう。
余裕があればスズメバチが飛び去っていく方向もチェック。
その先に巣がある可能性が高いです。

次にスズメバチがこちらを意識した飛び方をしている場合。
妙にこちらのまわりを徘徊するように飛んだり、こちらを見たまま空中で止まった状態だったり。
この場合は自分がスズメバチの巣に接近してしまっている可能性が高いです。
さらにカチカチッというアゴを鳴らす警告音が来たらもう完全にイエローゾーン。
身をゆっくりとかがめて蜂とは逆のほうへ立ち去ってください。
このとき、もし白色の帽子やタオルなどを所持しているなら頭に被ると安全性が高まります。
しばらく蜂が後をつけてくることもありますが、刺激さえ与えなければ大丈夫です。

絶対にNGなのは、手で払って攻撃したり、大声を出したりすること。
道具を振り回すのもダメです。
何かで脅かしたところで、巣を守っている彼らには「逃げる」という選択肢はありません。
無駄な刺激を与えれば確実に針を立ててこちらに襲い掛かってきます。

スズメバチ③

人間にとっての危険性③

③もしも刺されてしまったら

どんなに対策をしても刺されてしまうこともあるでしょう。その毒性による症状と処置の解説をしておきます。しかしその前に、まず自分の身の安全を確保してください。刺した蜂はまだそばにいませんか？スズメバチはミツバチと違って何度でも刺します。また、蜂の毒針からは仲間に警戒信号を送るフェロモンも分泌されているので、その場を離れて安全を確保してください。



刺されて腫れあがった手の比較

次に症状。

刺された箇所がすぐに大きく腫れ上がり、熱を持って激しく痛みます。部位によっては気持ち悪いぐらいにパンパンに腫れあがってしまうことも。単体の蜂による毒だけで死亡という例はほとんどありませんが、集団に刺されて傷が数十箇所に登る場合やアナフィラキシーショックを起こした場合は死に至ることもあります。実際に命を落としている方が毎年20人近くいます。

処置としては、刺された箇所を指でつまんで毒を外部に押し出してください。これが早ければ体内に回る毒の量を最小限に抑えることができます。このとき口で吸い出すのは危険ですのでやらないでください。口の中の自分では自覚のないような小さな傷からでも毒が体内に侵入する場合があります。そして冷たい流水で傷口を洗い流しながら冷やします。所持しているなら抗ヒスタミン軟膏、ステロイド剤、タンニン酸水を塗布。これで自分のできる処置は終了です。あとはすみやかに病院へ行って診断を受けてください。



アイソラム-バー

スズメバチ③

人間にとっての危険性④

④アナフィラキシーショックについて

蜂に刺されて死亡した件のほとんどはこれによるものです。簡単に言うと、毒に対して免疫が過剰に反応してしまって激しいアレルギー反応が出てしまうというもの。一度スズメバチに刺されたことがある人がもう一度刺されたときに起こる症状です。めまい、嘔吐、下痢、呼吸困難、全身じんましん、顔面蒼白などの症状を引き起こして最悪の場合は死に至ります。

もっとも多いのは、じんましん、赤み、かゆみなどの「皮膚の症状」。次にくしゃみ、せき、せいで、息苦しさなどの「呼吸器の症状」と、目のかゆみやむくみ、くちびるの腫れなどの「粘膜の症状」が多いです。そして腹痛や嘔吐などの「消化器の症状」、さらには、血圧低下など「循環器の症状」もみられます。これらの症状が複数の臓器にわたり全身性に急速にあらわれるのが、アナフィラキシーの特徴です。

可能性は低ですが、これらの症状が出ていないかは必ず気にしてください。早い場合は刺されて30分後くらいから兆候が見られます。兆候が見えるのが早ければ早いほど危険です。もし怪しいと思ったときには迷わず救急車を呼びましょう。



皮膚の症状 (全身)

- じんましん
- かゆみ
- 皮膚が赤くなる

粘膜の症状

- くちびる、舌、口の中が腫れる
- まぶたが腫れる



呼吸器系の症状

- 息切れ
- せき
- 呼吸音がゼーゼー、ヒーヒーする



あるいは

- 血圧の低下
- 倒れる
- 失禁する



<http://allergy72.jp/anaphylaxis/symptom.html>より

スズメバチ④

オオスズメバチは全て地中や樹洞などの閉鎖空間に営巣します。地中が最も多く、ネズミ穴や樹木が倒れてできた穴などを利用して営巣します。巣は土の中、木の中の空洞や根のすき間につくられるため、外から発見することは困難です。

このため、気付かず巣に近寄ってしまう危険性が非常に高くなっています。

営巣する場所が地面や木の中がメインとなるため、刺傷被害としては、やはり山中など木がたくさんある場所が多いようです。

ハイキングなどで近くに巣がある場合、足音などで非常に興奮したオオスズメバチが人間を襲う事がしばしばニュースにも出てきますね。

オオスズメバチに刺されるパターンというのは、だいたい巣の付近を何も知らないで通ってしまい、蜂を刺激した場合に起こります。

農村地帯で草刈りの作業中や、遠足ハイキング、オリエンテーション、きのこ採り、狩猟など野山に入っていく場合に被害が発生しています。



↑キロスズメバチの巣(右)と、オオスズメバチの巣(左)

スズメバチ⑤

キロスズメバチ
テレビなどでよく見る、全体を壁で覆ったボール型の巨大な巣をつくります。

その規模はスズメバチの中でも最大級で、性格の狂暴性と相まって近付くのは非常に危険です。オオスズメバチと比べて、都会に巣をつくるケースも多くみられます。

更に、キロスズメバチは群れが大きくなるにつれて、巣を引越す(新しい巣をつくる)こともあります。

女王蜂とわずかな働き蜂しかいない間は樹洞・床下・屋根裏などの民家を含む閉鎖的な空間につくることが多く、働き蜂の数が膨大になると樹上や軒下といった、巣の拡大や出入りがしやすい開けた場所にあらしく巣をつくります。



↑強靱なアゴ(左)と、腹部の毒針(右)

スズメバチ⑥

①刺された傷に小便をかけるといっているのはデマ！

昔から蜂に限らず、虫刺されには小便をかけるとういという話を聞きます。尿に含まれるアンモニアが毒の成分に働きかけるとのことですが、毒液の分析がしっかりされていない頃に流行ってしまった全くのデタラメです。そもそも小便にはアンモニアそのものはほとんど含まれておらず、アンモニアを得たければ時間をおいて小便中の尿素が細菌に分解されなければいけません。

②蜂は黒い色を攻撃してくる

これは本当です。白色が安全って意味ではありませんが、黒色が危険なのは確かです。蜂が黒色に対して何を思って攻撃性を高めるのか理由ははっきりしていません。天敵であるクマの体色が黒であるからとか、哺乳類の弱点である目鼻の色だからだとか、説はいろいろあるみたいですが、とにかく薄い色の帽子や服などで露出を少なくすればハチの攻撃性を少しは抑えられるってことは間違いのないようです。（※白い服でも刺されるときは刺されます）

③「蜂は夜なら安全！」は信用しすぎないで

「蜂は夜目が利かないから夜に巣を駆除すれば安全！」
そうやって素人が蜂の巣を駆除しようとしたのを止めたことがあります。スズメバチが夜目が利かない？
あんな真っ暗な巣穴の中に住んでいる生き物に対して、どうしてそういうことを言えるのか（笑）
そりゃあ、明るい昼間よりは見えなだろうし行動も活発ではないです。しかしそれだけの話。ハチは暗くてもそれなりに飛びます。昼間より危険性は下げられますが、絶対に安全とはいえませんのでご注意ください。

スズメバチ⑦

ハチの誘引捕殺器

設置時期：4～5月。女王蜂が冬眠から目覚め、活動しはじめたころ。

材 料：ペットボトル（2リットル）
日本酒
黒蜜（ハチミツでも可）

作り方：ペットボトルのふたを外す。
日本酒と黒蜜を8：2の割合で混合する。
混合した日本酒と黒蜜を200mlほど、ペットボトルに入れる。
活動地付近の木の枝にぶら下げておく。

注意点：①ハチが集まりやすくなるため、人の出入りが多い所に設置しない。
②ハチ以外の昆虫もトラップに引っかかる。

その他のハチ



クマバチ



セイヨウミツバチ



ニホンミツバチ



セグロアシナガバチ



クロスズメバチ



ヒメスズメバチ

オオムカデ (ムカデ)

日本でオオムカデ科に属するのは、全国的にはトビズオオムカデ、アカズオオムカデ、アオズオオムカデなどがいて、沖縄限定ではハブオオムカデ、タイワンオオムカデなどがいます。

北海道以南に生息。

大きい物は20cmを越すほどの個体がいる。

体長はだいたい8cm~15cm程度。

21個の体節から長い足が1対ずつ生えていて、しかも蛇行するように動くために、実際に目にしたときは数字以上の大きさを感じます。

ちなみにオオムカデの足の数は42本。

ムカデは漢字では「百足」と書きますが、実際100本ということではなくムカデの種類によって数はまちまちです。

ゲジ目では最少で30本、ジムカデ目では最多の346本の種がいます。

あと足が多い種ほどその足の長さは短くなる傾向にあります。

ふだんは雑木林などにいるが、湿った場所を好むため家の中まで入りこむことはある。

ちなみに寿命は7~10年程度です。

日本でオオムカデといったら、トビズオオムカデのことだと考えて特に差し支えありません。



オオムカデ（ムカデ）

夜行性なので夜になると活発的に移動して、昆虫や小動物を捕まえて食べています。オオムカデはトノサマバッタやゴキブリはもちろん、小型のネズミまでもを捕まえるぐらいに獰猛です。触覚で獲物の体温を感知し、急激に接近しその鋭い牙で攻撃して毒を流し込みます。毒を流し込まれた獲物はその作用によって動くことができなくなり、そのまま鋭いアゴの餌食になります。冬は樹木の隙間の奥や、土の中などに潜って寒さをしのいで過ごしています。温かい隙間を狙って入り込んでいくので、その結果として人が住む屋内に紛れ込むこともしばしば。かなり狭い隙間にまで入り込むことができるため、古い木造建築の家屋などは簡単に侵入されてしまいます。



寝ている布団の中に入ってこられるケースもしばしばあります。ぐっすり寝ていて無抵抗であってもムカデは容赦なく咬みついてきます。

かなり鋭い牙を持っているので咬みつかれると非常に痛く、しかもその毒は強烈です。血球溶解作用を持つ毒で、その成分はスズメバチのものに非常に近いもの。咬まれた箇所は大きく赤く腫れあがって熱を持ち、電流が走るようなビリビリした激しい痛みがあります。この症状が数時間続いて非常に苦しい思いをすることになります。咬まれたことがあります、精神的にも肉体的にもかなりしんどいです。

いちおうオオムカデの毒で命を落とすことはありませんが、乳幼児が首などを咬まれた場合は重症に至ることもあります。あとごくわずかな確率ではありますが、アナフィラキシーショックの可能性もないわけではありません。（※アナフィラキシーショック・・・毒に対して免疫反応が過剰に働いて重篤な症状を引き起こしてしまうこと）

ムカデに噛まれて腫れる人は蜂に刺されても腫れないと言われていました。大概つがいで居るので、一匹殺しても、もう一匹殺すまで用心すること、あとはタバコのヤニを居そうな所に撒くこと。灰皿に水を入れておき、その茶色くなった水を使うとよい。

ヤマビル

体長2～8cm程度の動物で、光を嫌い湿潤な環境を好む為、普段は落ち葉の下などに生息しているが、動物や人の気配を感じると接近して吸血してくる。陸に棲むヒルで、吸血性のヒル類としては日本本土では唯一の陸生のヒルである。一般には山地の森林に生息し、特に湿潤な、溪流沿いのコケの多い所などに多数見られる。水分の多い沢筋、吸血対象となる動物が通る歩道や獣道、作業のために人の出入りが多いスギ林など

対策

食塩水・木酢液をバケツなどの容器に入れ、サポーター、軍手、靴下を2～3日浸し、乾燥後長靴などに巻きつけ利用する。靴下の中にズボンを入れ、長靴や靴を履くと安心です。



“やけど虫”とは、コウチュウ目ハネカクシ科「アオバアリガタハネカクシ」の俗名。

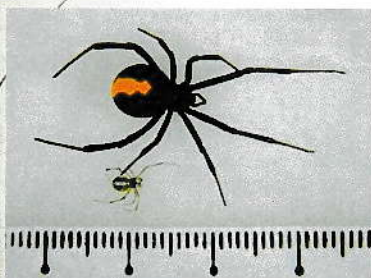
体長7ミリくらいだが体液にペデリンという毒をもっていて、つぶしたり払ったりすると「線状皮膚炎」を引き起こす。線状に赤く腫れて水ぶくれとなる症状がやけどに見えるため、この俗名がついた。

付着後およそ2時間ほどしてかゆみを感じ、発赤、水ぶくれを生じ、やがて火傷をした時のような痛みになる。



カバキコマチグモ

日本全国に生息する。
日本固有種の毒グモでは一番の毒を持つ。
ススキなどに生息。巣は張らない。
神経毒を持ち、激しい痛みがあり赤く腫れ上がる。
長いと2週間ほど痛みが続くため皮膚科へ行きましょう。
死亡例はない。



セアカゴケグモ

もとはオーストラリアの固有種だが今ではほぼ全国に生息。
岩場の影や隙間、植木の下などいろんな所にいる。
福岡では自販機の中においてジュースを取ろうとして噛まれる
事故もある。
噛まれた瞬間激しい痛みがあり、重症化はまれだが子供など
は注意。死亡例も多く、抗血清を使わないと、死亡することもある。
噛まれた場合は直ぐ病院へ

扱、メス両方毒があります



チャドクガ



イラガ

ドクガ、イガ、カレハガは幼虫の時は毛虫で毒を持つ。特にチャドクガが成虫、卵の時でも毒を持ちます。毒毛が刺さると激しい痛みで2、三時間で腫れ上がり痒くなる。また、アナフィラキシーショックを起こす危険があり、直ぐ病院へ行きましょう。応急処置としてガムテープなどで毒毛を取るのが効果的

ブヨ ブユ

日本全国に生息。清流や山中、その環境に近い所にいるため、ゴルフ中の被害が多い。カと同様、メスのみが吸血するが針ではなく皮膚を噛みきり唾液を入れる。翌日以降に激しく腫れ上がり発熱する場合も。腫れがひくまで2週間ほどかかる。



マメハンミョウ

ハンミョウと言うがハンミョウの仲間ではない。体液にカンタリジンと言う毒があるため触ってはいけない。カンタリジンの致死量は0.03グラムなため、忍者や古来中国で暗殺に使用された。

アオカミキリモドキ

全国に生息。こちらもカンタリジンを持ち、刺激すると間接から毒を出すので触ってはいけない。しかも夜行性で街灯などに寄ってくるので子供などに触らせないように注意。皮膚につくと爛れ、目に入ると失明の危険。



アブ

全国に生息。
人の血を吸うがかなり痛い。また痒くなる場合もある。
しかもしつこく追いかけてきて何回も刺すので恐ろしい。
皆様も海やバーベキューで追いかけ回されませんでしたか？



ヤブカ

媒介するデング熱

デング熱はデングウイルスによる感染症で、発熱、頭痛、目の痛み、関節痛、皮膚の発疹などが主な症状です。
通常デングウイルスは日本国内には存在しません。
これまでは海外旅行先で蚊に刺されて国内で発症するパターンが多かったのですが、
2014年8月に国内で海外に渡航していない人の発症が確認され、それがヒトスジシマカの媒介によることがわかりました。
つまり、

1. 海外に行った日本人が旅行先で蚊に刺されてデングウイルスに感染する
2. 国内に帰ってきてから新たに蚊に刺され、その蚊がデングウイルスを保持する
3. その蚊がほかの人を刺してウイルスに感染させる

という流れで国内でのウイルス感染が起きたわけです。
これは非常に大きなニュースになり、メディアでも大きく取り上げられました。
しかし、メディアはすぐに「殺人ウイルス日本上陸！」みたいな過剰な騒ぎ立て方をします。
正しい知識を持って対応していきましょう。

デングウイルスは3日～7日程度の潜伏期間を持って発症します。
症状は前述したとおり、高熱、頭痛、目の痛み、関節痛、筋肉痛、皮膚の発疹など。
個人差もありますが発熱は40度近くになるときもあり、関節痛や筋肉痛の痛みはかなり大きいと言われます。
ごくまれに発熱後に血漿漏出に伴うショックと出血傾向が確認される患者があり、
その場合は「デング出血熱」という病名にあたり命の危険があります。
(デング出血熱も医療機関にかかって正しく治療を行えば死亡率は1パーセント以下)

